

活動団体： 公益財団法人オイスカ

～すべての人々が様々な違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指す～

団体の活動



オイスカは主に、アジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなれるような研修を行っています。オイスカの研修を修了した各国の青年は、それぞれの国で農村開発や地域活性化に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催を通しての啓発活動や、植林及び森林整備における環境保全活動を展開しています。

<https://oisca.org/>



畑の堆肥撒き



「富士山の森づくり」活動への参加

インターンプロフィール

山崎 敦也



IT 会社のエンジニアを退職し、農業を通じた国際協力を目指してオイスカ活動に参加。ボランティア期間を経て、2022 年からオイスカ四国研修センターで職員となる。

所属団体で活動するきっかけ

私は、土と触れ合う「農業」を通じた国際協力がしたいと考え、自身の農業技術と指導力の向上を図るためにオイスカで活動しようと決心しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

四国研修センターでは、各国からの青年を研修生として受け入れ、有機農業や食品加工・調理を中心に教えています。その中で私は、指導員として研修生と共に有機農業を行っています。

スキルアップのためにしていること

日々、畑で上司指導の下、有機農業の技術習得に励んでいます。また、研修生とコミュニケーションを取り、異文化理解にも繋げられるように努めています。

海外研修について ～どこで何を行う予定？

インドネシアでオイスカセンターOB・OGの方々が実施している独自プロジェクトの現場を視察したいと思っています。また、日本との農業技術の違いを感じ取り、現地ならではの農業技術の習得もしたいです。

今後のビジョンは？

四国研修センターで有機農業の技術習得に励みます。その後、海外の現場で農業指導を通して、途上国の地域発展に貢献することを目指します。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

私自身、前職では国際協力と無縁の仕事をしておりましたが、今では直接的に関与する仕事に就くことが出来ています。皆さんも、やる気と情熱さえあれば、どんなタイミングからでも国際協力の道で活躍できると思いますので、まずは一歩足を踏み入れてみてはいかがでしょうか？

団体アピール

1961年に発足し、2021年で60周年を迎えました。41の国と地域で国際協力活動を展開。国連社会理事会カテゴリー1(ジェネラル)に位置付けられています。既に日本で研修を受けて、母国で活躍している人材は6000名超。農業従事者もありますが、企業家、政治家として国を動かす人材も多く輩出しています。